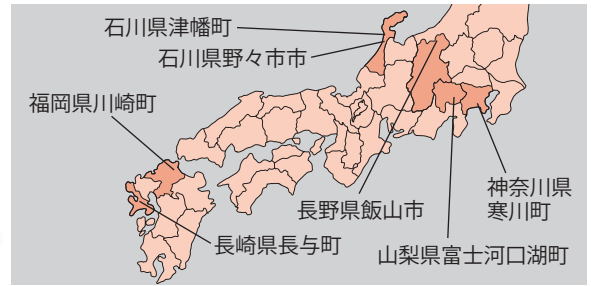


# 視察・研修 レポート



## 県町村議会議員研修会

### 災害に強いまちづくりを学ぶ

群馬県町村議会議員研修会が、10月28日、吉岡町文化センターで開催されました。

講師は、防災システム研究所長の山村武彦氏が「自助・近助・共助でつくる災害に強いまちづくり」と題し、お話がありました。具体的には次の通りです。これからの防災は、命を守ることを優先する。関東・東北豪雨災害が教えてくれたこと。最近の大規模地震に学ぶ実践的防災。自助と共



(議長 岸 祐次)

## 議会広報常任委員会

### クリニックを広報づくりに生かす

#### 町村議会 広報研修会

東京都

10月25日、東京、シエーンバツハ・サポーにおいて、町村議会広報研修会が行われました。赤羽博之氏による「わかりやすく、伝わる広報誌」、豊田健一氏による「読まれて伝わる議会広報誌 ドラッグ



(委員長 坂田 一広)

## 群馬県町村議会 広報研修会

前橋市

11月22日に、市町村会館で、芳野政明氏を講師に、議会広報研修会がありました。

最初の講演では、「住民の関心を高める情報発信、住民への説明責任を果たす」との観点から、広報誌づくりの意義について述べられていました。

広報クリニックでは、吉岡町の議会広報紙は「住民参加企画など幅広く読み応えがあり、議事公開性も高い」との評価をいただきましたが、「見出しやレイアウトに検討を要する」との指摘もありました。今後の広報づくりの糧とします。

(委員長 坂田 一広)

## 議会運営委員会

長崎県

福岡県

## 議会活性化について学ぶ

議会運営委員会では、11月16日に長崎県長与町、17日には福岡県川

議会基本条例制定後の議会運営について、視

察研修を行ってきました。

長与町議会では、議会条例制定後、条例を運用するために細かく要綱などを制定していました。

川崎町議会では、平成23年から通年議会を実施して、本会議の開催日数の増加、委員会活動が活性化し、議員の出席日数も年間90日を超えているとのことでした。

両町とも、真剣に議会活性化に取り組んでいる姿勢がよく見え、意義ある視察となりました。

(委員長 小池 春雄)



視察後、川崎町議会の議場を見学

## 総務常任委員会

神奈川県

山梨県

## 男女共同参画の先進地に学ぶ

11月7日8日の2日間、神奈川県寒川町と、山梨県富士河口湖町・山梨県立防災安全センターで視察研修を行いました。

寒川町では男女共同参画基本法が制定された翌年、「さむかわ男女共同参画プラン」を策定し、その後も町民とともに関連した、さまざまな取り組みが推進され、その成果も表れているとのことでした。参考になることが多々ありました。

富士河口湖町では、男女共同参画基本法に基づき、女性議員の働きにより、男女共同参画推進本部を立ち上げ、平成18年度から「第1次ふじサンサンプラ

ン」、平成28年3月、「第2次ふじサンサンプラン」を策定し、男女共同参画を推進してまいりました。町民への理解を深めようとしている様

子が、うかがえました。山梨県立防災安全センターでは災害時の体験談を拝聴し、大きな収穫がありました。

(委員長 山畑 祐男)



河口湖町での視察



## 「地域包括支援」を学ぶ

10月19日と20日石川県津幡町と野々市市で視察研修を行いました。津幡町は金沢市に隣接し、新旧住民が在住するまちで、地域間で人口や年齢、住民の支え合う意識に差がありました。福祉の拠点づくりは個々の地域ごとに取り組んでいました。野々市市も金沢市と隣接し面積も13・6平方キロメートル、人口5万1752人と元気なまちです。若者も多く地域で支える体制を、認知症サポーターの確保で取り組んでいます。認知症サポーター講座

(委員長 馬場 周二)

座を開催し、人口の10%5千人を目標に推進を図っています。高齢化社会の中、地域包括支援は地域で高齢者を支えるもの、今後の参考になります。



元気なまち野々市市に学ぶ

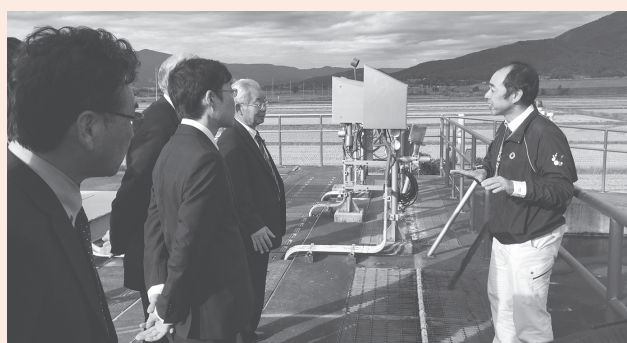
## 公共下水道と農集排の統合に向けて

11月17日、長野県飯山市の公共下水道と農業集落排水施設の統合についての取り組みを視察研修しました。

飯山市の農業集落排水施設は、劣化が早く、維持管理費が高額であるために、農集処理場を廃止し、近隣の下水処理場に接続する事業を進めています。

(委員長 岩崎 信幸)

現在、9カ所の内の2カ所は済んでおり、統合後では、建設費と維持管理費が364万円削減されました。完了は平成33年度予定です。



研修後、終末処理場を見学

## 群馬用水トンネル視察

12月15日「群馬用水緊急改築有馬トンネル併設水路工事」の現場を視察しました。

群馬用水施設は、昭和42年通水開始から40有余年を経過し、老朽化により、トンネル内のひび割れや地下水が多量に浸水するなど劣化が進行し、今回、上野田地区から渋川市有馬地区までの約2キロメートルに直径2メートルの併設水路を設置するものです。

(議長 岸 祐次)

現状は、上野田地区の発信基地から300メートルまで工事が進んでいます。完成は、



掘削中の併設水路